第3種郵便物認可　北海道

酸飲料やビールなど中身の圧力が高い飲料に限って使われていました。内側からの圧力が

ユニーク名刺で自分アピール

ラケット型や家族写真、エコ素材

長方形が相場の名刺にも、楽器やスポーツ用具をかたどったりしたユニークなものが増えてきた。道産小麦わらなど今までにない素材にこだわるものも登場している。最近の名刺事情をのぞいた。

（磯田佳孝、安藤徹）

名刺は5・5㌢×9・1㌢の大きさが一般的な規格。印刷会社のエール（札幌、☎011・642・0305）は昨年、この規格をはみ出さない範囲で、パークゴルフのクラブや卓球のラケット、グランドピアノなどをかたどった特殊な形の名刺を10パターン作り販売を始めた。

「ほかにも注文に応じていろいろな形に加工できます」と同社の竹内弘志さん(32)。将棋の駒や楽器、音符などのイラストを入れたり、家族やペット、自作の書道・絵画作品などの写真を印刷することもできる。

パークゴルフや将棋の駒のイラスト入りや、卓球のラケットの形の名刺＝エール

気軽な会話のきっかけに

同社がこうした名刺を開発した背景には、自前で名刺を作れるパソコンソフトの普及や、景気低迷による企業の需要減がある。そこで、個人用の名刺の販売に力を入れようというわけだ。

定年退職した男性や、趣味やボランティア活動に積極的な中高年女性の間では、肩書のない個人用の名刺を持つ人も増えつつある。

札幌市中央区の主婦長峯慰子さん(76)は昨年、肩書のない、名前と住所など連絡先だけ記したオリジナルの名刺を作った。ボランティア団体理事の肩書付きの名刺もあるが、「堅苦しくなく、新しく知り合いになった人に渡せる名刺がほしかった」と動機を話す。手書き風のハートのイラストがお気に入りで「渡した人と会話がしやすい」と喜ぶ。

同社は「退職と同時に名刺がなくなり不安に感じたり、言葉では伝えにくいメールアドレスを教える手段に困るといった声を聞く。今後も個人向けの名刺の需要は広がりそう」とみている。

道産小麦わら使用 環境配慮も

環境に配慮したリサイクル素材などの〝エコ名刺〟を手がける丸吉日新堂印刷（札幌、☎011・837・9636）は今年3月から、道産小麦ハルユタカのわらなどを利用した「北海道産小麦わら名刺」を販売する。

「材料から製造まですべて道産にこだわりたかった」と阿部晋也社長(41)。長さ10㌢程度に切断した小麦わらを砕き、王子特殊紙江別工場にある球状の「地球釜」で古紙などを加えて高温で蒸し上げ、用紙を製造した。

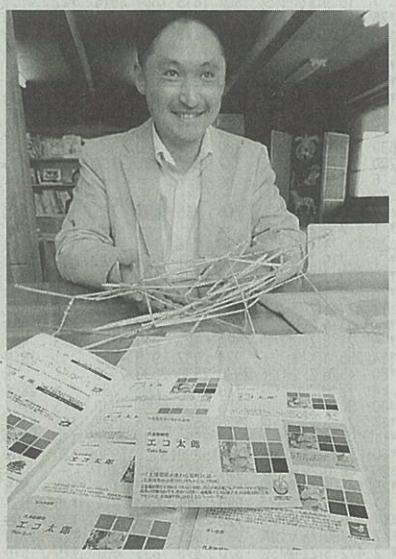
小麦わらの配合量は約10％で、約500㌔の小麦ロール1本からとれる原料はわずか数㌔。わらの素朴な質感を残しつつ、細かい文字を印刷しやすいよう表面を平らにする工夫を重ね、2年かけて製品化した。

通常の名刺に比べ価格は2割ほど高く、年間10万枚程度の製造にとどまる。だが、料理教室「ホームメイド協会」を全国展開するサンリッチ（東京）が「パン教室が国産、道産小麦のみ使用していることをアピールしたい」と社長や営業スタッフの名刺に発注するなど反響が出てきた。

手がけるエコ名刺はほかにも、ペットボトルやバナナの皮などを原料に15種類。夏場には、札幌・大通公園のとうきびワゴンのトウモロコシの皮を再利用した「とうきびの皮」名刺も販売する。

通販での顧客が主で道内向けは2割程度だが、売り上げの1％は自然保護団体などに募金。「名刺交換の場で環境問題を話題にしてもらうのもいいのでは」（阿部社長）という。

これらのエコ名刺は、道内では成瀬印刷(旭川、☎0166・23・4404)でも販売している。



「北海道産小麦わら名刺」と、原料の小麦わらを手にとる阿部社長＝丸吉日新堂印刷

イラスト・赤塚千賀子

度の問題から丈夫なスチール缶を使っていました。でも、これも技術の発達で、品質保証する貴重な資源です。捨てるときはきちんと分別を心がけましょう。

（サイエンスライター）

きょう

時サケ

（1人分47

時サケのうま味ご飯です。

◇材料（2人分

かけ、玉ネギ¼個1個、パプリカ赤つきアサリ6個、大さじ1、固形ショウ、オリー

◇作り方

①米は乾いた布サリは洗って砂出